

学校名	福島県南会津郡只見町立明和小学校
授業者	薄 陽太

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

只見町の未来を考えよう

1-2. 学年

第6学年

1-3. 教科等 (単元を実施する教科等を全てお書きください)

総合的な学習の時間, (社会科・学校行事・・・合科的, 関連性をもたせた学び)

1-4. 単元の概要

子どもたちは皆、「只見町が好き」「将来只見町に住みたい」と答えるが、その理由は曖昧であり漠然としていた。一方で商業、交通網に関し、不便を感じている子どもも多い。人口減少が進む只見町で自分たちが将来を担っていく立場になるという自覚はあまりなかった。そこで、只見町の魅力や課題、将来等を考えることで、「只見町を自分たちの町」として考えていけるようにと考え、単元を構想してきた。その際、「未来の只見町」を子どもたちの視点で考え、それを提案していくことによって、只見町の現状（よさと課題）、自分とのかかわり、理想等々を自分事として考えることができるようになっていった。学ぶ題材としては、5年生までの地域学習はもちろん、地域で働く方々から考えを聞いたり、修学旅行先で只見町をPRする活動を位置付けたりしていったことで、より、主体的に学びに向かう姿が見られるようになった。町づくりを考えていく中で、只見町と他地域、また山や海等の環境にも目が向かうようになり、視野の広がりも見られるようになった。そして、自分たちが考えた「将来の只見町像」をジオラマに表し、それを基に、町内外の方々に提案していった。そうすることで、自分たちの学びが価値付けられ、今後の学びの糧とすることができた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- 只見町の将来を見つめさせる。
- 持続可能な社会の創り手としての自覚をもたせる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- 自分の住む只見町に改めて関心をもち地域の方々の思いや考えを聞くことで、町のよさや課題等の現状を知るとともに、そこから町の未来を考える活動を通して自分自身の今後の行動に生かそうとする力（知識及び技能）
- 只見町に住む自分や人々の思い、町の産業、歴史、そして近年繋がる海辺の新潟県の地域の産業について調べることで、新たな問いを見出し、その問いを追究していこうとする力（思考力・判断力・表現力等）
- 只見町や新潟県の地域について学んだことを生かして、地域社会の一員として自覚をもち、只見町の発展に貢献しようとする力（学びに向かう力・人間性等）

1-7. 単元の展開（全40時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ～ 8	◎ 地域の方々からの話 ○ 只見町の産業にかかわる方から話を聞く。 ○ 学校を支えてくださっている方から話を聞く。 ○ 保護者から話を聞く。 ○ 只見の未来像の構想を意識させる。	○ それぞれの立場（産業にかかわっている方、地域の方、保護者の方等）から、未来の只見町の在り方や、児童に対する希望等を聞かせることで、只見町に対する新しい気付きを促すとともに、自分たちの町をどうしたいのか考えさせたり、将来を担う存在としての自覚をもたせたりしていく。
9 ～ 30	◎ 只見町の未来構想 ○ 自分の理想を考える。 ○ 友だちの考えを聞いて、共通点や相違点を知ったり、新たな考えをもったりする。 ○ 一人一人の考えを整理し、これからの只見町に必要なもの・ことや、残したいもの・ことについて話し合い、将来の只見町像をまとめる。	○ 自分の考えをもたせるために、十分な構想時間を与える。また、その際に、これまでの学びから考えることができるよう、学びの足跡を活用させていく。 ○ 友だちとの交流の際は、多様な考えを認め合えるよう指導していく。 ○ 話し合いの際には、「必要なもの・こと」「残したいもの・こと」という視点を与えることで、考えを整理しながらクラスの考えをまとめることができるようにさせる。
31 ～ 40	◎ 地域への発信 ○ 未来像をジオラマに表す。 ○ 校内外に発信する。 ○ 自分たちにできることを考える。	○ 構想した未来像をジオラマに表すことで、自分たちの考えた町が作られていくという実感を伴わせ、より自分事としての学びにさせていく。 ○ 作成したジオラマを基に、自分たちの考えた未来像を校内外に発信させる。対象を校内の児童はもちろん、他校の児童、保護者、地域の方、議会及び町職員、そして県外の方々と幅広く設定することで、意欲付けと意識付けを図っていくとともに、自分たちの考えを広くアピールする場とさせる。 ○ 考えた未来にしていくために、自分たちが今できることは何か考えさせ、具体的な行動に表させる。

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

町の未来像について考えを伝え合う活動を通して、友だちの考えとの共通点や相違点に気付き、よりよい只見町の未来について具体的に考えることができる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 前時までの学習からめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の考える「只見町の未来」を伝え合い、よりよい只見町について具体的に考えよう。</p> </div> <p>2 学習してきた内容（人々の思いや取り組み）や、前時までに只見町の未来について考えた自分の伝えたいことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 写真，壁新聞，作文</li> <li>○ 残したいもの（こと）</li> <li>○ つくり出したいもの（こと）</li> </ul> <p>3 只見町の未来についての考えをグループで伝え合い、友達のと考えを比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人ずつ</li> <li>○ 考えた理由，思い</li> </ul> <p>4 只見町の未来についての考えを全体で交流し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 只見町のよさを生かし，課題を克服する町づくりに繋がっているかどうか（取捨選択）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 写真や壁新聞，児童が書いた作文を基に，これまでの活動を振り返ったことで，その時の様子や自分・人々の思いを想起させ，町づくりについての意欲を高めたり，自分の考えを再確認させたりした。その際，自分の考えと友達の考えの違いに目を向けさせたことで，自分の考えを伝えたいという必要感をもたせていくことができた。</li> <li>○ 前時までに一人ひとりが考えた未来像をもとに，提案内容を付箋に書かせた。その際，どうしても伝えたい理由を明確にさせ，未来像について取捨選択していったとともに，只見町への思いを高めたり，説得力のある提案にさせたりするようにした。</li> <li>○ 自分の考えを伝え合う際は，まず3名程度のグループでの交流をさせた。そうすることで，自分の考えを表出したり，友達の考えを受けて自分の思いや考えと比較したりする場をつくっていった。</li> <li>○ 自分の考えを伝えたり，友達の考えを聞いたりするだけにならないよう，新たな気付きをメモさせたり，どうしてそう考えるのか，教師が問い返したりしていった。その際，考えがあいまいな子どもには，もう一度，写真や作文などを基に自分の思いを振り返らせるようにした。</li> <li>○ 話し手の口調や聞き手の表情等から子どもたちの思いを見取り，その思いのよさを称賛し全体に広</li> </ul>

<p>5 本時の学習を振り返り、これからの活動への思いを高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の成果の実感</li> <li>○ 今後の見通し</li> </ul>	<p>げていった。そうすることで、認め合う雰囲気をつくるとともに、よりよい提案へと繋げられるようにしていくことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもたちが付箋を貼りながら活発に意見を交流できるような場を設定した。また、子どもたちの背景にある思いを問い返したり、友達の考えと繋げさせたりしたことで、伝えきれない思いや願いを表出させることができた。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価 友達の考えの共通点や相違点に気づき、よりよい只見町の未来について具体的に考えているか。 (活動の様子、児童の発言)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達との交流で気付いたこと(友達の提案内容のよさや自分の考えとの比較)を発表させた。</li> <li>○ 子どもが残したいと考えたもの(こと)にも触れ、只見町のよさを大切にしているという思いのよさを称賛し、価値付けしていったことで、次時からの学びの意欲付けを図った。</li> </ul>
---	--

### 3. 今回の活動の自己評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 普段意識できていない、町のことやその未来のことについて考えさせる機会をもったことは、子どもたちにとって、自分自身のことを考えるのにつながるとても有意義な学びへとつながった。また、ただ単に自分の思いを表すだけではなく、町で働く方々、自分たちを見守ってくれている地域の方々、保護者の方々に町に対する思いを聞いた上で、町の構想を考えていったことで、子どもたちにとって、学ぶ必要感や切実感をもたせることにつながった。そして、構想した未来像をつくって完結するのではなく、それを町内外の方々(議会の方や県外の方等幅広い方々)にも発信する場を設けたことで、自分たちの考えた町が実現するかもしれないという期待感をもって学習のまとめに向かわせることができた。</li> </ul>
--

### 4. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学びを町全体に発信できたことに大きな意義がある。しかし、6年生という段階であり、進学後に学びをつなげていくためには、綿密な引継ぎが必要である。ただ、中学校の単元構想もあり、町内3小学校から進学してくることを考えると、学びの継続にはハードルがある。そのような視点も加味した上で単元構想をしていくことも必要である。</li> </ul>
---

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な「ひと・もの・こと」の協力があつての本単元である。地域の方の協力にとどまらず、町や教育委員会、他校、企業等広い協力体制がないと、単元を創り上げていくことは難しいであろう。</li> </ul>
--

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。